

雌阿寒岳

1 概 況

3月21日、雌阿寒岳山頂の北西側斜面で小規模な噴火が発生しました。

雌阿寒岳では、2006年3月21日06時28分頃から10時30分頃にかけて振幅の大きな火山性微動が発生し、その後灰色の噴煙が南東の方向に流れるのが観測されました（気象庁監視カメラによる）。

陸上自衛隊帯広駐屯地第5旅団の協力を得て、釧路地方気象台が上空から行ったヘリコプターによる観測の結果、噴火地点は山頂の北西側斜面（標高1300m付近）で、新たに生成された複数の小さな火口と、山腹で停止した小規模な二筋の泥流の痕跡が認められました。

21日および22日に、気象台が行った降灰調査の結果、釧路市の国道240号線の温根内（おんねない）橋付近（雌阿寒岳の南東約10km）や釧路市飽別（あくべつ：火口の南東約14km）などで微量の降灰が確認されました。

釧路市飽別で採取した火山灰を北海道大学が分析した結果、新しいマグマ噴出を示す物質は認められず、今回の噴火は水蒸気爆発と考えられます。

本日（22日）に北海道の協力により実施した上空からの観測では、北西側斜面の火口からは白色の噴煙が東へ流れ、昨日確認された二筋の泥流は、標高1000メートル付近まで達しているのが認められました（幅は狭く、長さ約1000メートル）。

21日の小規模な噴火の発生以降、火山性地震は1時間あたり20回程度と一時的にやや多くなりましたが、その後は1時間あたり数回以下で推移しています。

雌阿寒岳で噴火が発生したのは、1998（平成10年）年11月9日の小噴火以来です。

以上のように、雌阿寒岳の火山活動は活発な状況となっています。今後の火山活動の推移に注意してください。

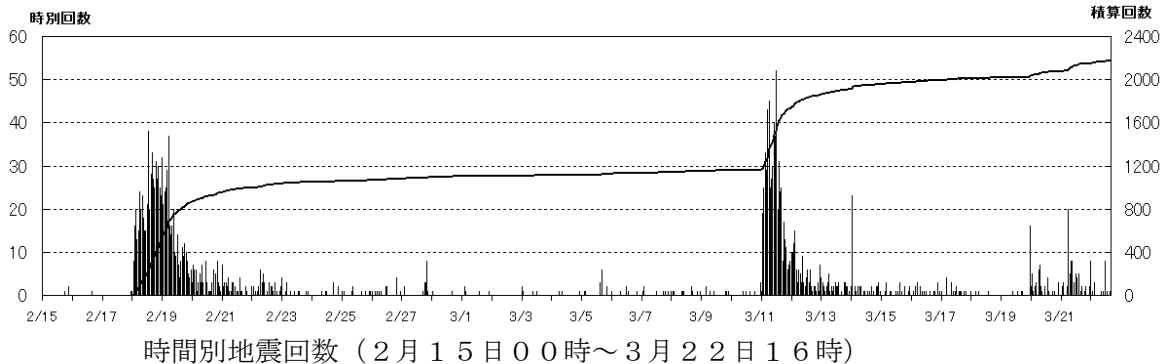
○ 火山情報の発表状況

発表時刻	情報番号	内容
2006年2月18日16時05分	火山観測情報第1号	火山性地震の増加、火山性微動の発生
2006年2月19日15時10分	火山観測情報第2号	地震活動の状況、上空からの観測結果
2006年3月11日11時00分	火山観測情報第3号	火山性地震の増加
2006年3月12日11時00分	火山観測情報第4号	その後の状況
2006年3月21日06時43分	臨時火山情報第1号	火山性微動発生
2006年3月21日07時05分	火山観測情報第5号	その後の状況
2006年3月21日08時50分	火山観測情報第6号	ごく小規模な噴火の可能性
2006年3月21日10時50分	火山観測情報第7号	降灰確認、小規模噴火
2006年3月21日12時20分	火山観測情報第8号	降灰調査結果、噴火位置
2006年3月21日16時10分	火山観測情報第9号	上空からの観測結果
2006年3月22日10時10分	火山観測情報第10号	その後の状況、降灰分析結果
2006年3月22日16時30分	火山観測情報第11号	上空からの観測結果、降灰調査結果

本資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図50mメッシュ（標高）』を使用したものである。（承認番号 平17総使、第503号）

2 地震・微動活動の状況

21日の小規模な噴火の発生以降、火山性地震は1時間あたり20回程度と一時的にやや多くなりましたが、その後は1時間あたり数回以下で推移しています。火山性微動は21日10時30分以降発生していません。



火山性微動の発生状況（2000年1月以降、B点での観測結果）

発生年月日	最大振幅	継続時間
2002年3月29日08時03分	0.54マイクロメートル	3分28秒
2003年1月1日02時07分	0.05マイクロメートル	1分9秒
2006年2月18日09時09分	0.22マイクロメートル	1分9秒
2006年2月18日09時27分	0.38マイクロメートル	38秒
2006年2月19日01時03分	0.07マイクロメートル	40秒
2006年2月19日06時50分	0.05マイクロメートル	1分11秒
2006年2月20日05時49分	0.14マイクロメートル	16分54秒
2006年3月19日21時58分	0.17マイクロメートル	50秒
2006年3月21日06時28分	4.25マイクロメートル	242分

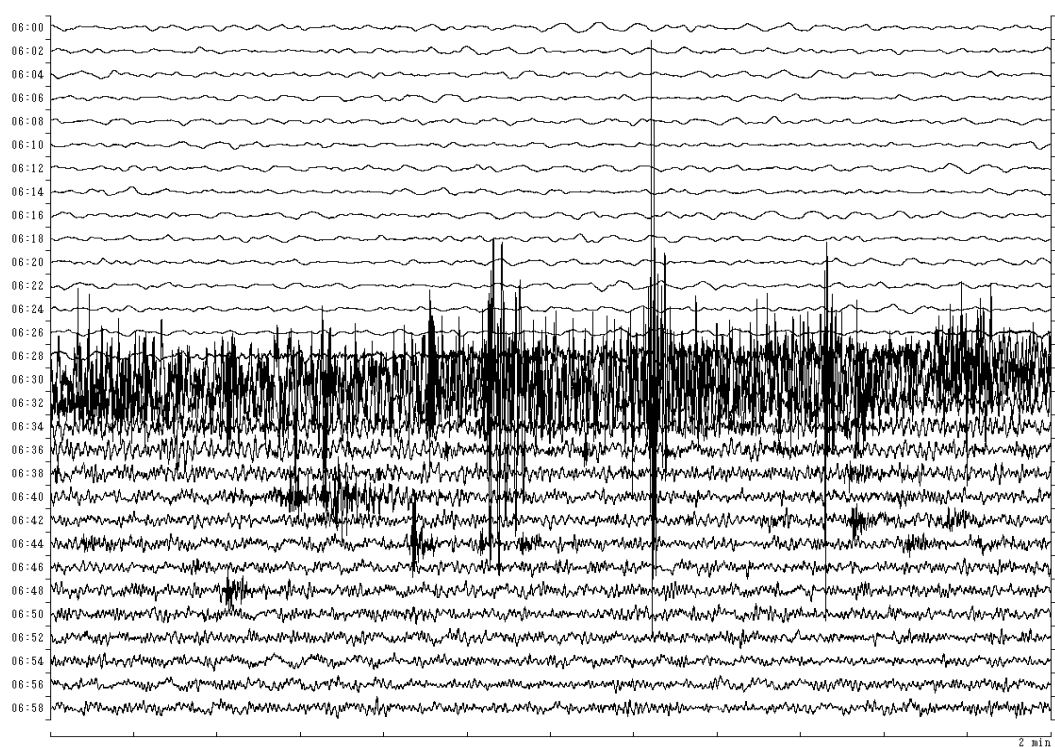
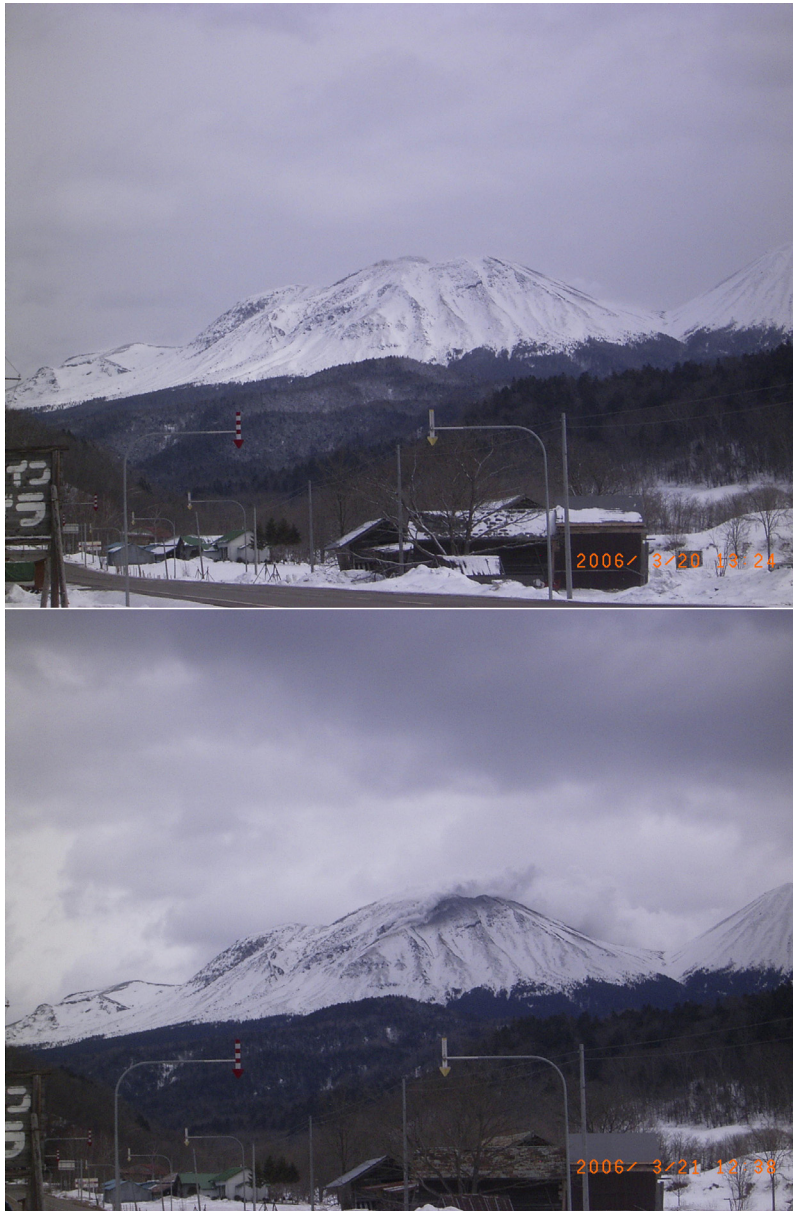


図1 06時28分に発生した火山性微動（表示期間 06時～07時）

3 噴煙活動の状況



雌阿寒岳の西約10kmから撮影した噴火前後の雌阿寒岳
（上：3月20日 13時21分 下：3月21日 12時38分 北海道大学笠原教授提供）



気象庁遠望カメラによる雌阿寒岳画像

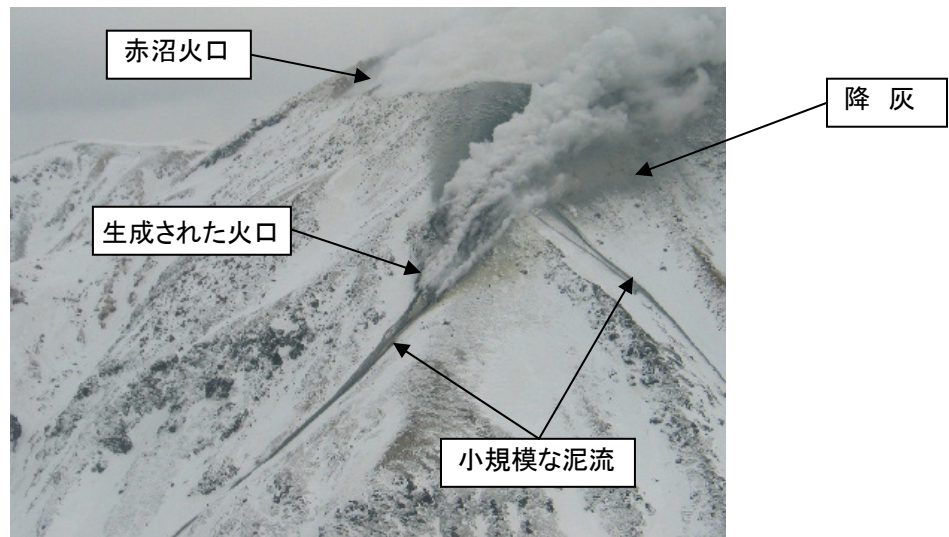
（左）3月22日 10時26分

（右）3月22日 16時00分

4 上空からの観測結果

3月21日に陸上自衛隊帯広駐屯地第5旅団の協力を得て、釧路地方气象台が上空から行ったヘリコプターによる観測の結果、北西側斜面に生成された新たな複数の小さな火口と小規模な泥流の痕跡が認められました。

また、3月22日に北海道の協力により実施した上空からの観測では、北西側斜面の火口からは白色の噴煙が東へ流れ、昨日確認された二筋の泥流は、標高1000メートル付近まで達しているのが認められました（幅は狭く、長さ約1000メートル）。また、赤沼火口は噴煙が充満しており、火口内を観察することはできませんでしたが、昨日の噴火以降、噴煙の多い状態が続いており、山頂付近の火山灰の堆積状況から、赤沼火口内でも噴火した可能性が考えられます。



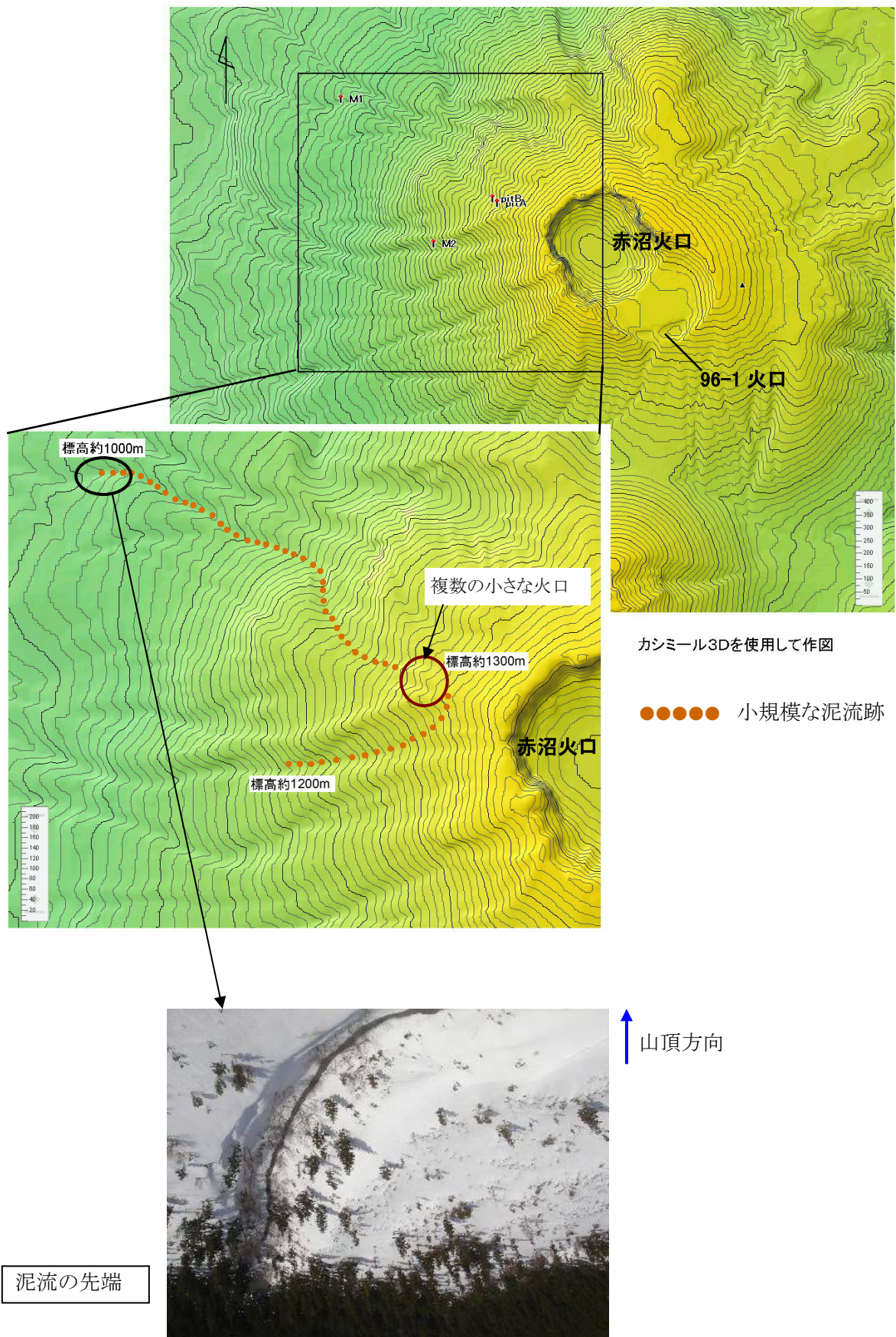
北西側上空から撮影した雌阿寒岳山頂付近（3月21日13時31分釧路地方气象台撮影）



西側上空から撮影した雌阿寒岳山頂
（3月22日12時33分
札幌管区气象台撮影）



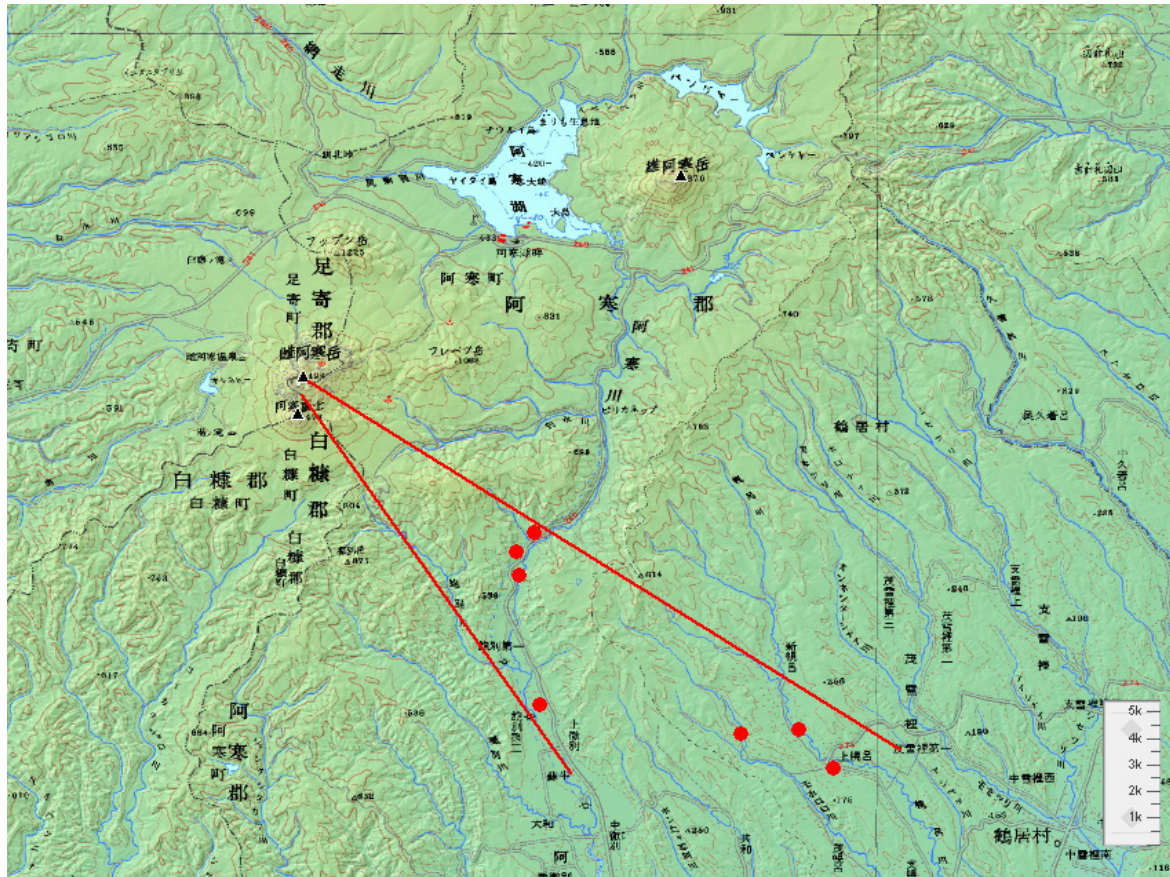
北西側上空から撮影した雌阿寒岳山頂
（3月22日12時45分
札幌管区气象台撮影）



小規模な噴火に伴い北西側斜面に生成された火孔と小規模な泥流

5 降灰調査結果

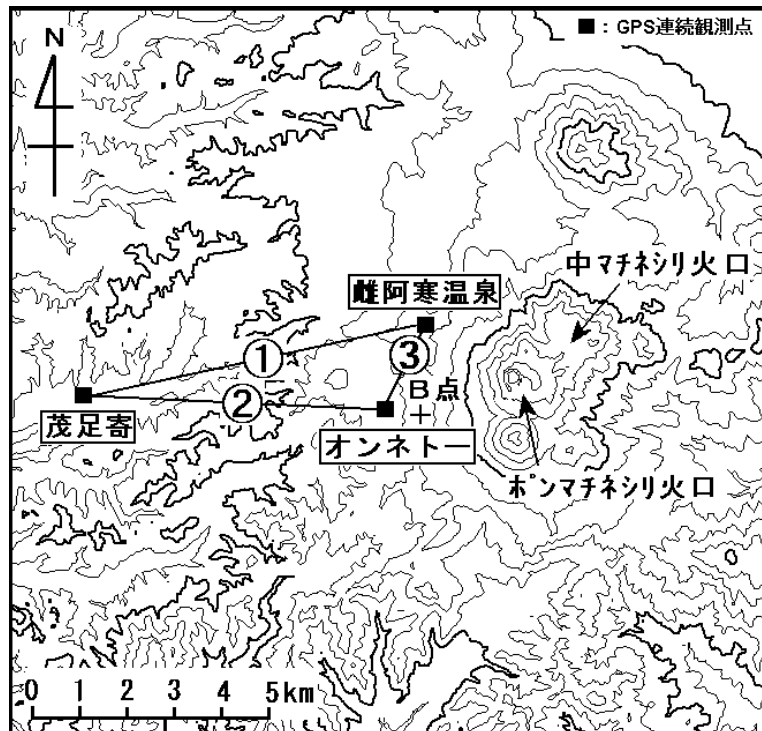
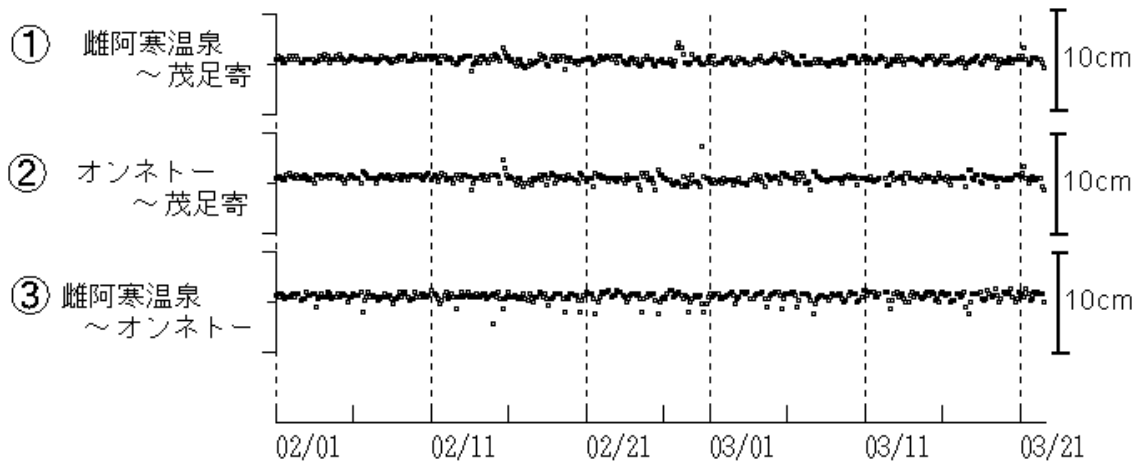
21日および22日に、釧路地方気象台が実施した降灰調査によると、雌阿寒岳南東側、釧路市の国道240号線の温根内（おんねない）橋～飽別（あくべつ）第二付近（幅約5000メートル）にかけて微量の降灰があったことが確認され、約23km離れた鶴居村上幌呂（かみほろろ）集落でも微量の降灰のあったことが認められました。



降灰が確認された地点（図中●）

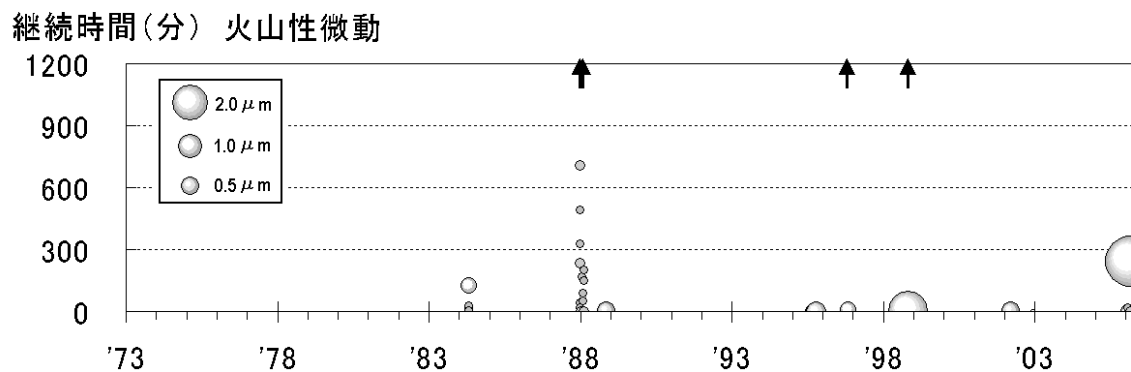
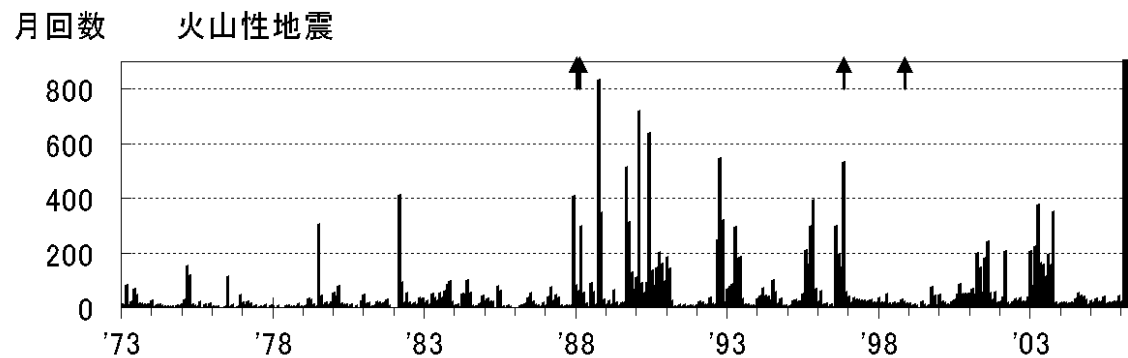
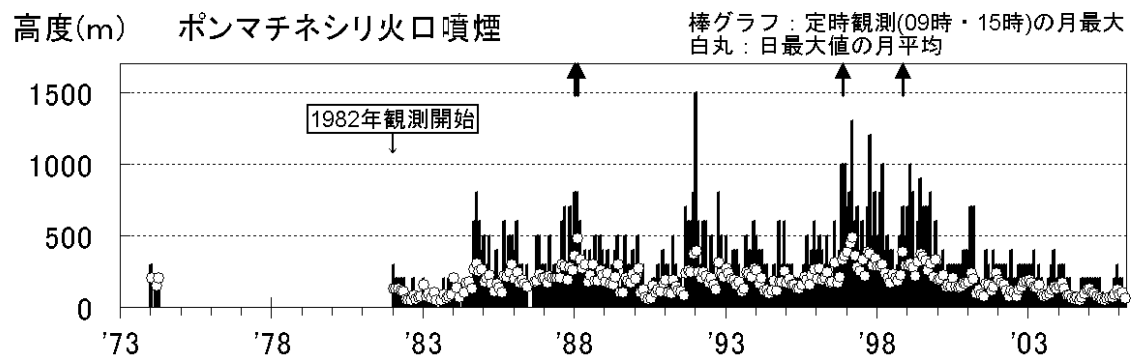
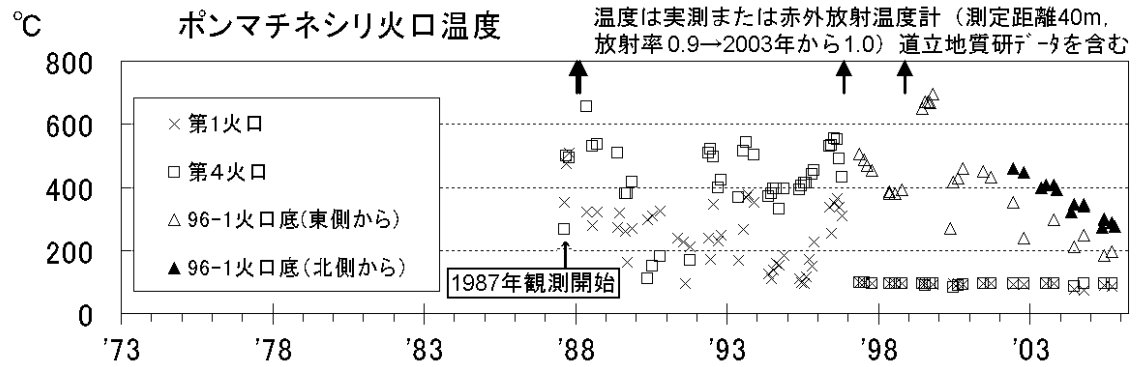
6 地殻変動の状況

気象庁のGPSによる連続観測では、地殻変動に特段の変化は認められません。



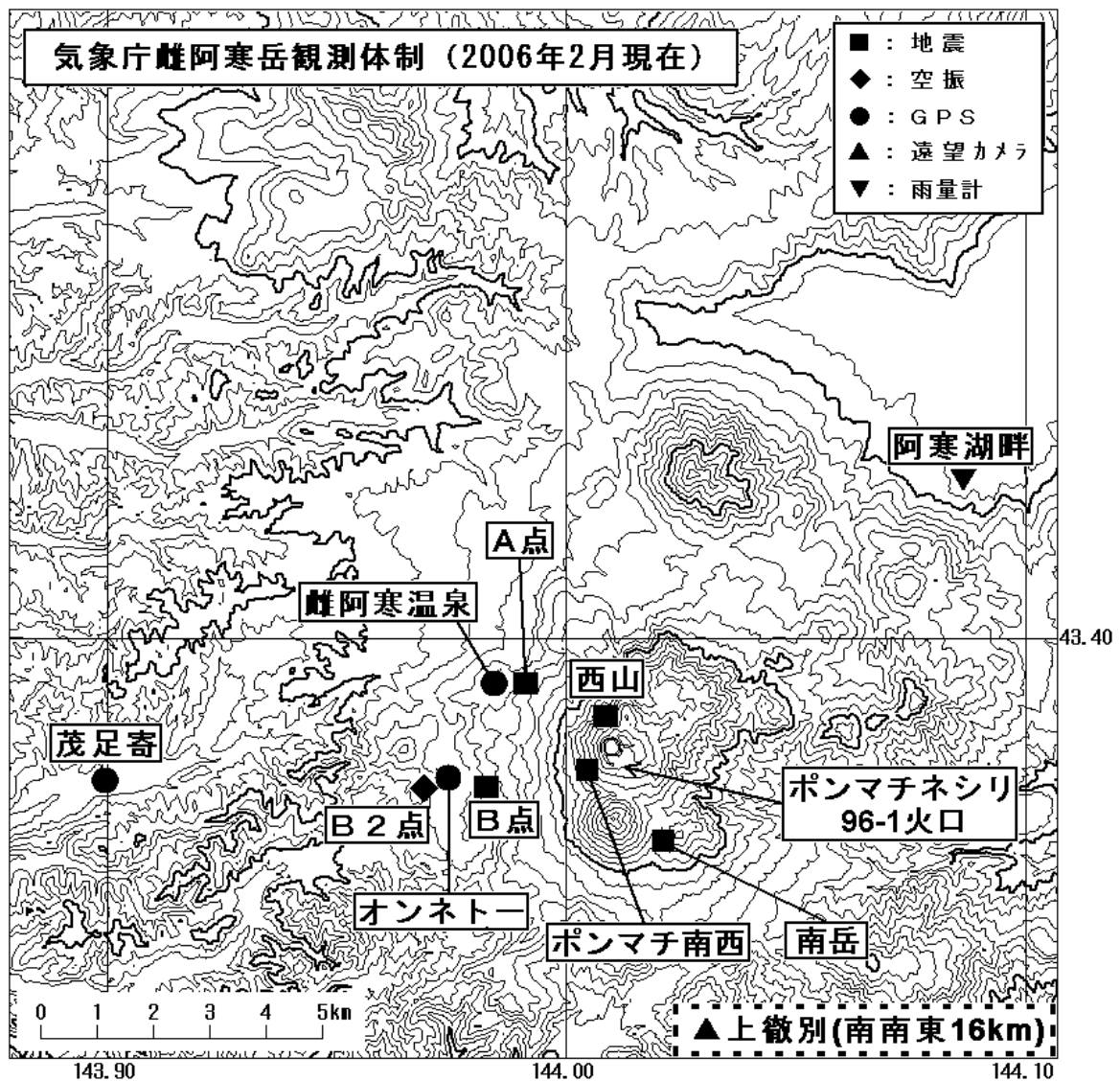
GPS観測結果（2006年2月1日～3月22日 16時）

※上段の基線長変化の番号は、下段観測点配置図の基線番号に対応しています。



雌阿寒岳 長期活動図（1973年～2006年3月）

○観測点情報



観測点一覧表 雌阿寒岳

（位置は世界測地系）

記号	観測機器	地点名	位置			設置高 (m)	観測開始 年月
			緯度(度分)	経度(度分)	標高(m)		
■	地震計	A 点	43 23.7	143 59.2	740	0	1981 年 1 月
		B 点	43 22.8	143 58.7	680	-1	2000 年 11 月
		西山	43 23.4	144 00.3	1275	0	2001 年 11 月
		ポンマチ南西	43 22.9	144 00.1	1265	0	2003 年 6 月
		南岳	43 22.2	144 01.0	1096	0	2004 年 10 月
◆	空振計	B 2 点	43 22.8	143 58.4	636	2	2000 年 11 月
▲	遠望カメラ	上徹別	43 15.7	144 06.7	145	4	1996 年 4 月
●	GPS	オンネトー	43 22.9	143 58.4	636	8	2001 年 9 月
		茂足寄	43 22.9	143 53.7	354	3	2001 年 9 月
		雌阿寒温泉	43 23.7	143 59.0	719	4	2001 年 9 月